2025（令和 7）年度沖縄県若年性認知症支援推進事業
若年性認知症本人交流会・本人ミーティング「同士会」　報告書

日時：令和 7 年 8 月 27 日（水）
会場：糸満市内の飲食店　　参加者：当事者 3 名／支援者 2 名／家族 1 名
目的：若年性認知症の本人同士が自らの体験や希望、必要としている事を語り合い、自分達のこれからのよりよい暮らし、暮らしやすい地域のあり方を一緒に話し合う場づくりを目指す。

1.近況報告（要旨）

前回の交流を振り返る。初参加された方のことや、「暑い時期の外出」「体力・睡眠」などの話題が出た。趣味・活動の話題が活発。歌・楽器（トランペット／ギター／ベース／ウクレレ）の話、学生時代の地域イベントの経験などが話題になった。また、生活家電の購入や住環境の調整 (エアコン等) について、判断や出費の負担の重さ、暑熱下での安全確保が話題に。

発言抜粋　「コロナのあと最近は少し緩くなって、また外に出られるようになってきた。」
「歌はいい。マイクいらないくらい声が出る。」
「（暑さ）危険サインが出る。着替えも 2 回。作業は水分補給が要る。」

2. 移動手段・通院と費用負担の話題

沖縄は電車がなく、バスは分かりにくいとの声。移動の困難が共通課題として確認。
通院は“必須の移動”。タクシーの利用頻度が高く、往復の費用負担が大きい。余暇には使いづらいとの本音も共有。 介護タクシーの活用や助成券の話題が出た。

3. 仕事・社会参加

O さんから、これまでの就労経験を踏まえ、発症当時の話題になる。営業職の対人業務の難しさ、配置転換後の洗車等の実作業、勤務時間の調整など具体的に検討。働く希望あるが、雇用する側や顧客の立場からの、相手を思いやる発言が多く聞かれた。啓発活動による職場理解の促進。「本人の希望／できる作業／雇う側の実情」をすり合わせることの重要性が話しあわれた。

発言抜粋　「お客さんの名前が覚えられない。できる範囲で続けたい。」
「自分が働きたくても迷惑は掛けられない、営業復帰は自分では無理だと思った」
「作業内容と体力・暑さのバランスを見たい。」

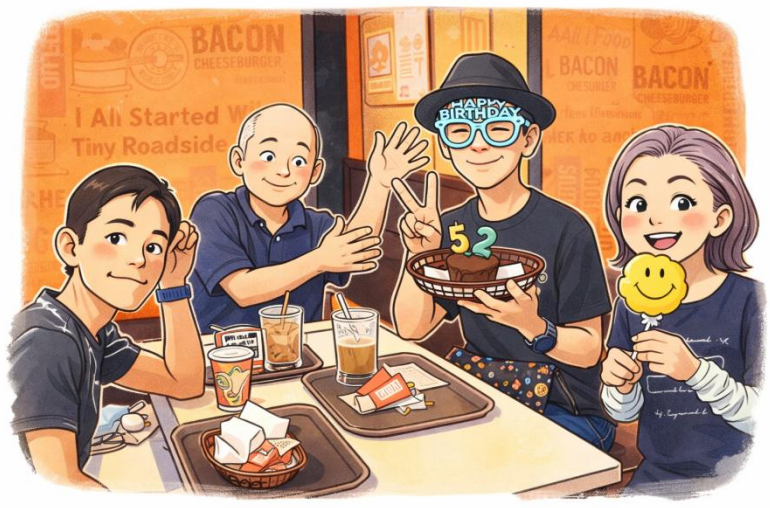
4. 家族・家計・暮らしの調整

出費（家電・PC 等）やローン、家賃、生活費などの“今後の見通し”をめぐる不安が率直に共有された。生活の工夫 (共有された事例) 鍵の識別 : 鍵と差し込み口に同じシールを貼って向きを合わせる。落下・紛失対策：キーにチェーンを付け、出先での置き忘れを防ぐ。

5. 活動・趣味・地域とのつながり

共通の趣味の話題から、学生時代のバンド仲間や好きな音楽の話になる。

講演・軽い演奏の構想が出た。外部講演会の前座でやれたらいいねとの声もあり、また、「日常生活の工夫」を紹介する講演会での案が出された。

7. 次回予定　場所は糸満市の商業施設で調整

以上